

県勢2校 頂点挑む

春季東北高校野球 あす岩手で開幕

第70回春季東北地区高校野球大会が7日、岩手県で開幕する。本県第1代表の八工大一、第2代表の八学光星を含めた東北6県の計14校が、春の東北ナンバーワンの座を懸け激突する。県勢の初戦はいずれも7日、八工大一は盛岡三（岩手第3代表）、八学光星は仙台二（宮城同）と対戦、県大会の成績を基に、戦いを展望する。

八工大一は2年ぶり16回目の出場。県大会は3試合にコールド勝ちするなど、打線が3割6分1厘と活発だ。一方、弘前学院聖愛との準決勝、八学光星との決勝は、いずれもスクイズをきつかけに逆転や勝ち越しに成功し

投手陣は大羽左腕・金淵を中心に安定感が光る。5試合中3試合でリリーフ登板した白石は、決勝で5回切を無失点に抑え、逆転勝利に貢献した。突出した選手はいないものの、チームの総合力の高さは上位だ。

昨夏の甲子園に出場した八学光星は、2年ぶり21回目の出場。決勝こそ2得点にとまったものの、準決勝ではライバル青森山田を8-10の七回コールドで破るなど、「強打の光星」は健在だ。主将・中澤恒は県大会で2本塁打を記録。下位打線も長打力があり、ボールの見極めを徹底して得点を重ねたい。

主戦岡本は計8回を失

点ゼロ。昨夏の甲子園を経て、接戦でも打ち合いで経験した洗平のほか、越も勝ち切実力がある。決勝は1日に盛岡市の智、石見らを含めいずれも球に力があり、三振もきたさんボールパークで取れる。失策わずかの守備陣が堅守で盛り立
(本田海輝)

工大一 打線活発 3割6分1厘

2年ぶり16回目の出場となる八工大一

光星 強打は健在 堅守も光る



2年ぶり21回目の出場となる八学光星